

学校法人永原学園の発展戦略

―来るべき人口減少社会、定常社会に永原学園はどう立ち向かうか―

本学園は昭和21年の創立以来、平成28年に創立70周年の節目を迎える。現在、西九州大学、西九州大学短期大学部、西九州大学佐賀調理製菓専門学校、西九州大学附属三光幼稚園、西九州大学附属三光保育園を擁する「西九州大学グループ」として、佐賀県を中心とした地域社会の発展に貢献し、さらに努力邁進しているところである。

しかしながら、18歳人口の減少、進学率の逓減、佐賀県内進学者の県外流出などの影響から、本学園の在籍者は平成25年度をピークに徐々に減少に転じることが懸念される状況にある。

本学園は、その設立以来、高齢者、障害者、子どもなどの領域に焦点化しつつ、「世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物の養成」（設置の理念）に努めてきたところであるが、70周年を節目として、その伝統を受継ぎ、「生活支援を科学し実践する」学園として、研究、教育、実践のさらなる充実と発展を期すものである。

そのような将来へ向けて挑戦する第一歩として、本学園は、以下のように、大学を中心とした学部学科改組及び大学院改革を実施する。

（1）積極的攻勢

本学園は保育園・幼稚園から大学院までを有する総合学園であり、高度の研究と教育を展開し、資格・免許を背景にした90%以上の高い就職率を維持していることを積極的に広報し、ブランド力の向上を図る。

加えて、本学園の長年の実績と社会的貢献に依拠する地域社会の期待に応え、かつ、それを支えるために必要とされる財政基盤を確立するため、大学の学科及び大学院を積極的に改組して入学者の確保に努めるとともに、リカレント教育、社会人教育の充実、推進を図るなど、地域社会に貢献する新たな大学のあり方を追求する。

（2）差別化戦略

本学園は、新しい時代の期待に応えるため、近隣の諸大学、自治体、及び地域企業との連携を強化し、協働するとともに、これまでに築き上げてきたすばらしい教育環境、学生に優しい支援体制、高い就職率、地域社会への貢献を基盤に、地域における生涯学習の拠点となることを目標とする。

西九州大学グループは、佐賀の未来を支え、地域とともに歩む総合学園として社会にアピールし、その理念と目標を達成するため、同窓会や後援会組織とも連携し、学納金特例措置や授業料減免措置を強化し、多彩な資質と可能性をもつ学生に就学の機会を提供するとともに、幅広い社会人に多様な学習の機会を提供することに努める。

（3）改善施策

本学園は、地域とともに歩み、地域に貢献する総合学園として発展するため、魅力的なキャンパスの整備、スクールバス通学網の充実を図り、地域社会の入学希望者、生涯学習希望者に幅広い就学の機会を提供することに努める。加えて、将来の東アジアを中心とする国際的地域社会の形成に

生活支援を科学し実践する学園

来たるべき人口減少社会、定常社会に永原学園はどう立ち向かうか



貢献するため、留学生の積極的な受け入れを始めとした国際交流を強化促進し、佐賀地域のみならず、西日本さらには国際社会にも開かれた学園となることを目標とする。

西九州大学グループ内部においては、学部改組、大学院の改革、教育課程の見直しと拡充などを通じて、日常的な学習と教育の充実にも努めるとともに、就職機会の改善、拡大を図るため、国家試験や各種資格試験対策、就職対策を強化する。西九州大学は、生活支援系の総合大学として、専門職の養成をめざしてきたため就職先はおのずと社会福祉施設・病院等が中心となった。今後は多様な学生のニーズに応えるために、各種企業などの新たな就職先の開拓に万全を期すこととする。

（4）差し迫った課題

18歳人口の減少に伴う入学者数の減少により、平成28年度より帰属収支が支出超過に向かうことが予測され、入学者の確保を早急に講じる必要がある。もとより、そのための方策は、競合する他大学の動向を十分に注視したものでなければならない。

また、建物の耐震性の強化、老朽化に対応するため大幅な改修、改築を行うため、整備計画が既に実行段階に入っている。校舎を始めキャンパスのあり方は受験学生の動向を左右する重要な要素であり、その点について配慮した内容である。

併せて、学園内事業についても、地域社会に貢献する総合学園という新しい展望のなかで見直しを進め、必要に応じて積極的にスクラップアンドビルドを推進することが求められる。